

RESAS

を分析してみよう

千葉県
君津市

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

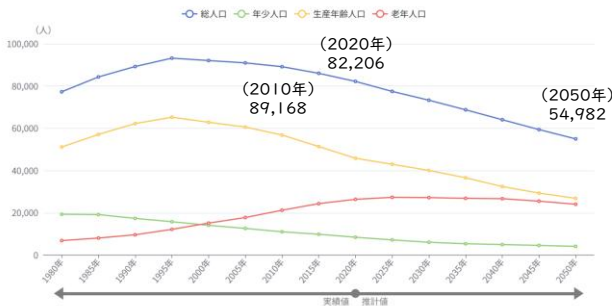
<https://resas.go.jp>

RESAS



人口推移グラフ

千葉県君津市



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。
 2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。
 2025年以降のデータは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯沼村）をまとめて推計しているため表示されない。
 総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口推移

年齢別人口推移 (2020年)

2020年の人口は総人口82,206人。10年前(2010年)の89,168人と比較して減少しており、今後も減少傾向が続く見込みである。

また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は横ばいから減少傾向にあり、老年人口割合は増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

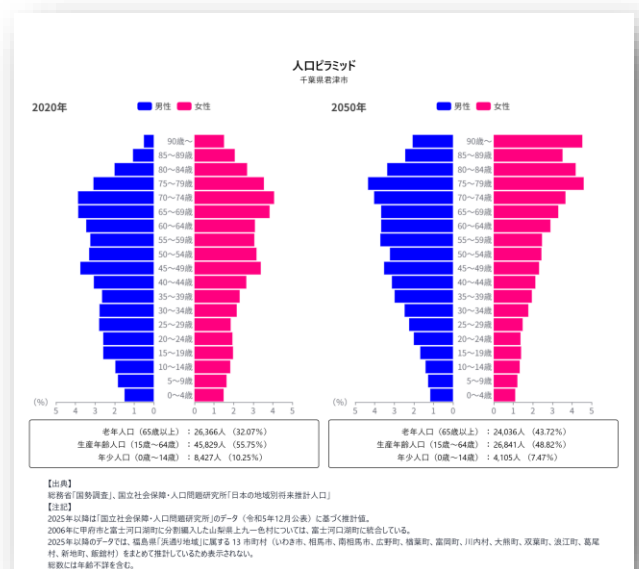
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。

① 将来の人口増減

	2020年	→	2050年	増減数	増減率
総人口	82,206人	→	54,982人	-27,224人	-33.1%
年少人口	8,427人	→	4,105人	-4,322人	-51.3%
生産年齢人口	45,829人	→	26,841人	-18,988人	-41.4%
老年人口	26,366人	→	24,036人	-2,330人	-8.8%

人口ピラミッド (2020年)

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の32.07%から2050年には43.72%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の55.75%から48.82%まで減少する見込みである。

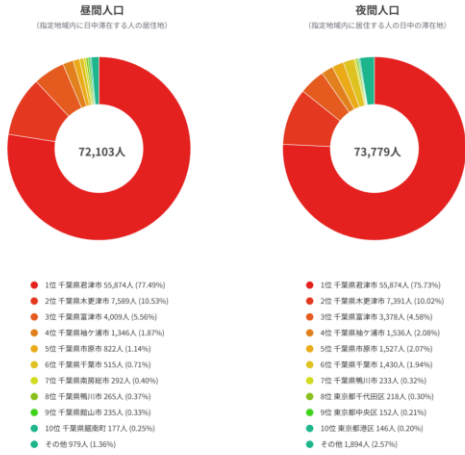


*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 千歳市 君津市
昼間人口：72,103人
夜間人口：73,779人
(昼間人口比率：97.73%)



滞在人口 (2020年)

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。君津市の昼間人口は72,103人、夜間人口は73,779人である。昼夜間人口比率97.73%と、通勤・通学等での人口流出が多いことがわかる。昼夜共に滞在人口の中で、もっとも多い居住地は君津市である。

※15歳以上の人口を対象として算出している。

【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計を用いて算出された人口をいう。算出方法は「地域に常住する人口」-「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」+「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」。

夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値に關して、平成22年10月1日以前に合併した岩手県一関市（一関市、盛沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び輪延町）、鳥取県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

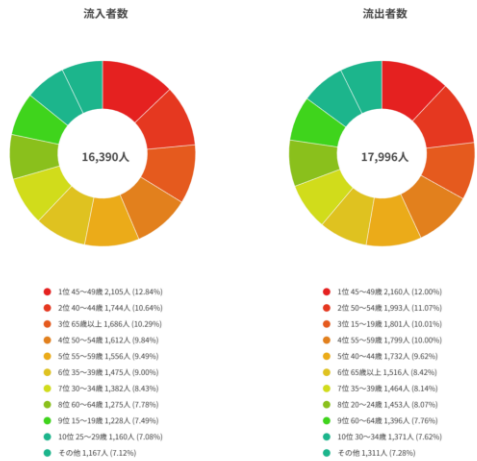
*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

流入・流出者数 (2020年)

君津市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流出超過数が1,606人と市外への流出者が多い地域であることがわかる。また、流入者数・流出者数ともに45~49歳がもっとも多くなっている。

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

2020年 千歳市 君津市
通勤者・通学者で見ると
流入者数：16,390人
流出者数：17,996人
(流出超過数：1,606人)



【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業者をいう。ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

通学者：通学者：この画面においては、15歳未満も含む通学者（自宅以外の場所で就業者）と15歳未満も含む通学者（主に高等学校や専門学校、各種学校に通学する者）の合計を指す。ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通学者には含まれない。

この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別区間および同じ法令指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていない。

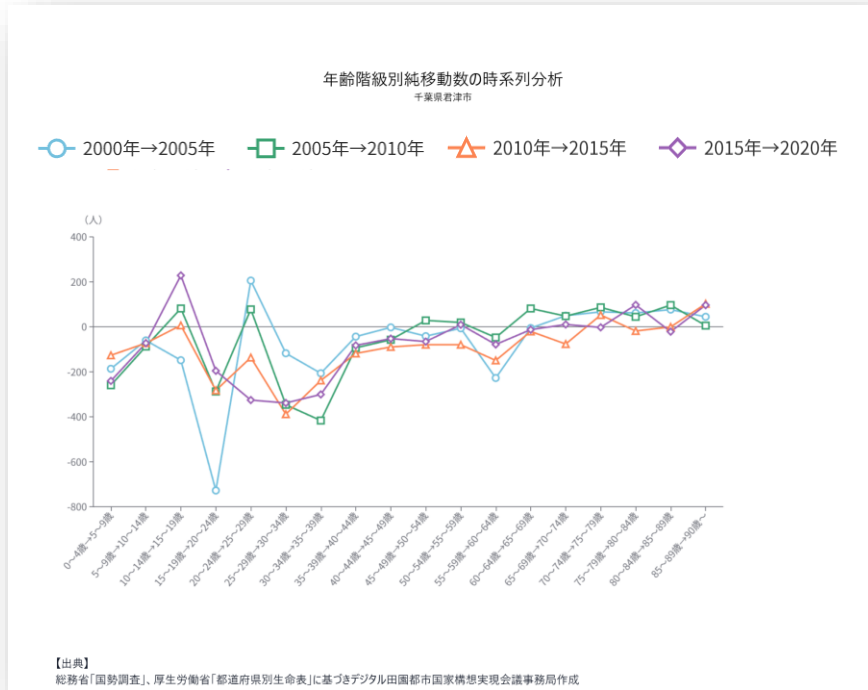
「平成22年国勢調査」による数値に關して、平成22年10月1日以前に合併した岩手県一関市（一関市、盛沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び輪延町）、鳥取県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

人口

年齢階級別純移動数時系列分析 (2020年)

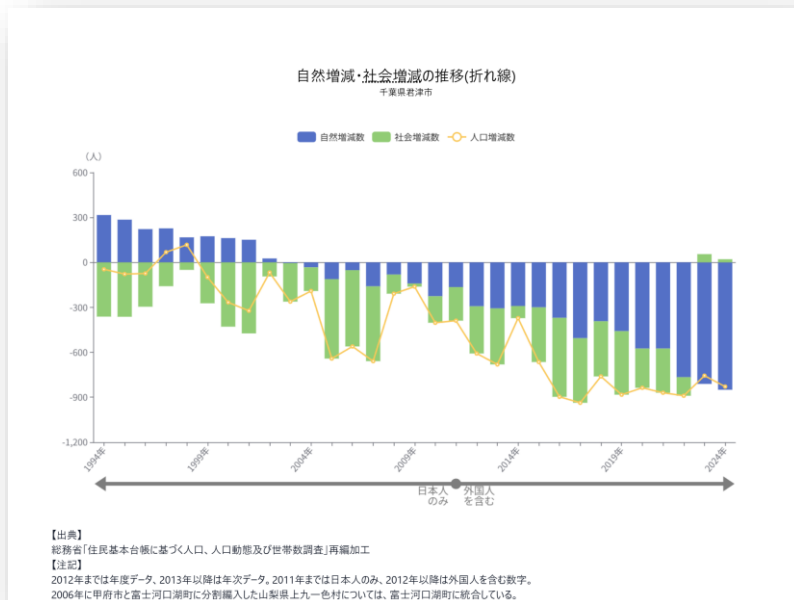
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流出し、就職時(20~24歳→25~29歳)にかけて市内へ人口が流入する傾向にある。さらに結婚や出産時(25~29歳→30~34歳)に人口が再度流出するが、子育て世代といわれる30~40歳代にかけて均衡に近い水準となり、その後は、年代ごとに増減の波はあるが、大きな流れとしては横ばいの傾向がみられる。



*人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移 (2020年)

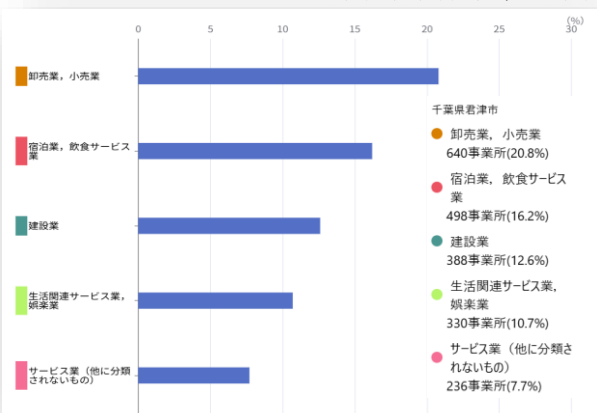
自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。近年、自然減・社会減の傾向が強、全体の人口としては減少している。



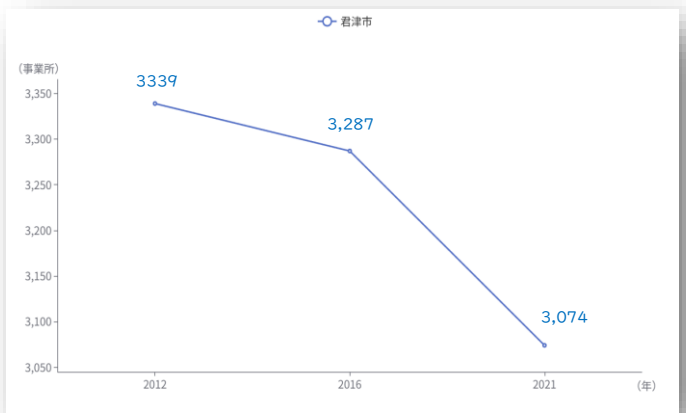
*人口マップ→人口増減分析→グラフ

産業構造

事業所数(事業所単位): 3,074事業所



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

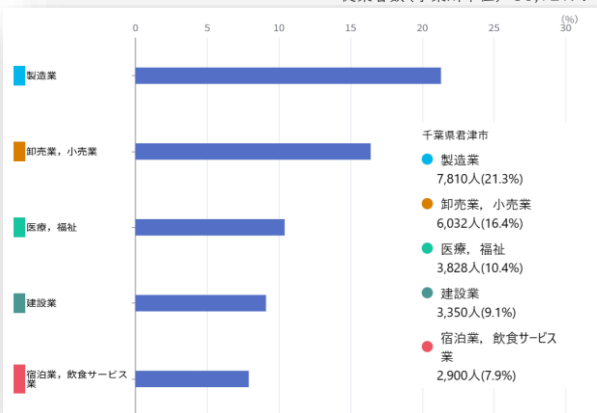
事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の640事業所で、全体の20.8%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の498事業所の16.2%が続く。

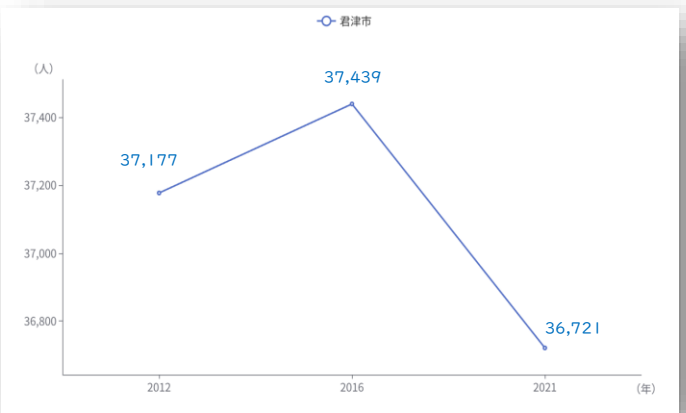
事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は3,074事業所であり、5年前の2016年は3,287事業所だったので、比較すると6.5%減少している。

従業者数(事業所単位): 36,721人



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)



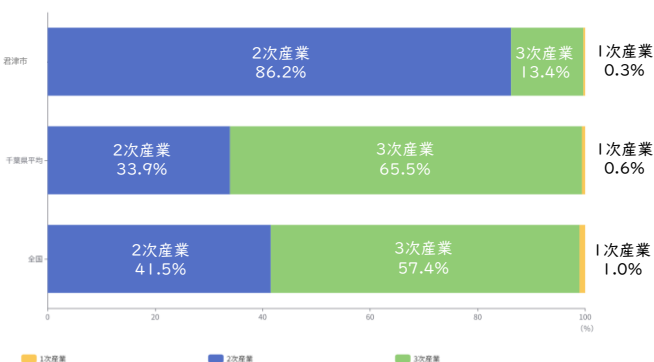
*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の7,810人で、全体21.3%を占めている。その後「卸売業、小売業」の6,032人の16.4%が続く。

従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移をみる。2021年は36,721人、5年前の2016年は37,439人だったので、比較すると1.9%減少している。



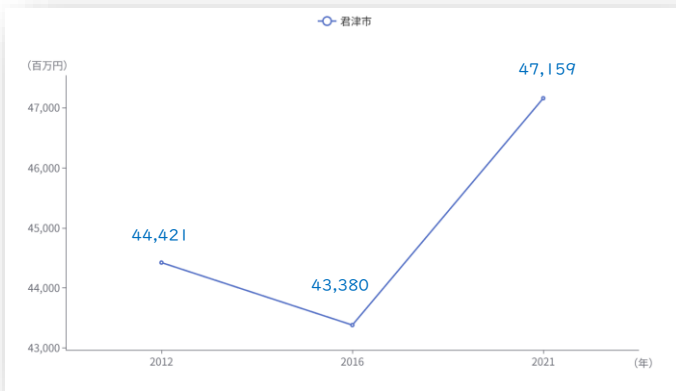
*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構成

地域内産業の構成割合 (2022年)

君津市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および千葉県と比較したグラフである。2次産業の割合が86.2%であり、全国および千葉県平均と比べて高い。一方、3次産業の割合は、13.4%と全国および千葉県平均に比べて低い。

*1次産業…農業、林業、漁業など
 *2次産業…製造業、建設業、工業など
 *3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



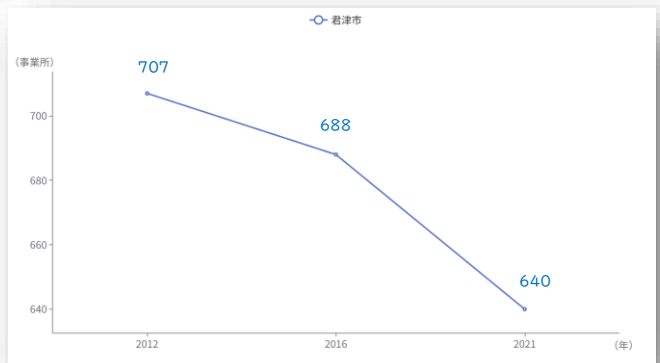
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。
2021年の売上高は47,159百万円である。9年前の2012年と比較すると44,421百万円なので、6.2%増である。

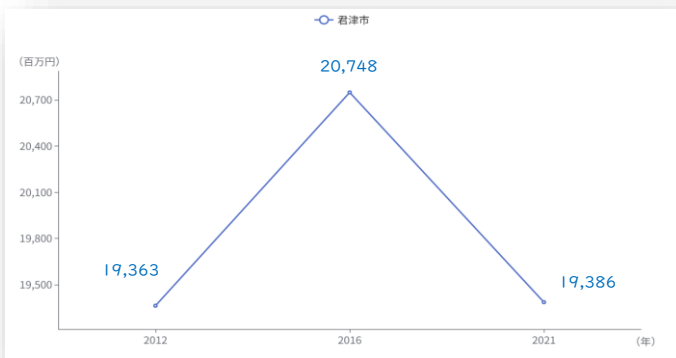
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。
2021年の事業所数は640事業所、2016年は688事業所であり、2016年と比較すると、7.0%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。
2021年の売上高は、19,386百万円である。
9年前の2012年と比較すると19,363百万円なので、0.1%増である。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。
2021年の事業所数は147事業所、2016年は157事業所であり、2016年と比較すると、6.4%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

地域ビジネス環境

地域ビジネス環境分析シート

2016年と2021年の比較による君津市の生活関連ビジネスの構造変化を示したものである。全体として小売業や飲食店は事業所数・従業者数ともに減少傾向にあり、特に飲食店は553事業所から440事業所、従業者も大きく減少している。一方、飲食料品小売業や持ち帰り・配達飲食サービス業は従業者数が増加しており、内食・中食需要の拡大がみられる。医療、社会福祉・介護分野では、事業所数・従業者数とも増加し、高齢化進展を背景に需要が拡大している。生活関連産業は、全産業の48.0%（事業所数）、34.6%（従業者数）を占め、地域経済を支える基盤分野であるが、構造は「商業縮小・医療福祉拡大」へとシフトしている。

地域ビジネス環境分析シート

② 業種別の事業所数・従業者数

～人口増減によって影響を受ける生活関連ビジネス～

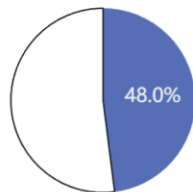
	事業所数			従業者数（人）		
	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
I_各種商品小売業	3	1	↘	167	43	↘
I_繊維物・衣服・身の回り品小売業	52	35	↘	287	206	↘
I_飲食料品小売業	160	149	↘	2,030	2,439	↗
I_その他の小売業	210	197	↘	1,692	1,579	↘
M_飲食店	553	440	↘	2,908	2,152	↘
M_持ち帰り・配達飲食サービス業	23	21	↘	193	320	↗
N_洗濯・理容・美容・浴場業	261	241	↘	646	564	↘
N_その他の生活関連サービス業	27	32	↗	213	171	↘
N_娯楽業	60	57	↘	1,250	956	↘
O_その他の教育，学習支援業	96	85	↘	538	564	↗
P_医療業	117	110	↘	1,456	1,569	↗
P_社会保険・社会福祉・介護事業	86	109	↗	1,929	2,129	↗

※全産業（公務を除く）に占める割合

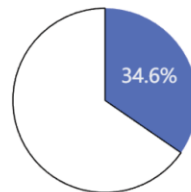
50.1% 48.0%

35.5% 34.6%

全産業（公務を除く）
に占める事業所数の
割合（2021年）



全産業（公務を除く）
に占める従業者数の
割合（2021年）



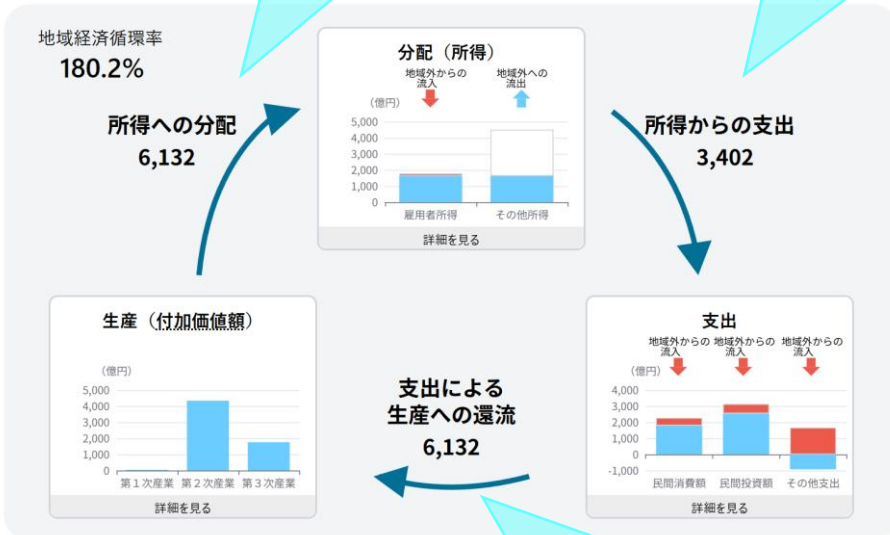
地域経済循環

地域経済循環図 (2022年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①君津市の企業は合計6,132億円の付加価値を生み出し、所得へ分配している。

②分配(所得)のうち、地域外への流出、地域外からの流入があり、支出に回される金額は3,402億円である。



*地域経済循環マップ→地域経済循環分析

③市内で支出に使われた金額は6,132億円。市外からの流入があるため3,402億円より多い。

付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。君津市では、「医療、福祉」の付加価値額がもっとも大きく、「建設業」、「運輸業、郵便業」の順に続く。

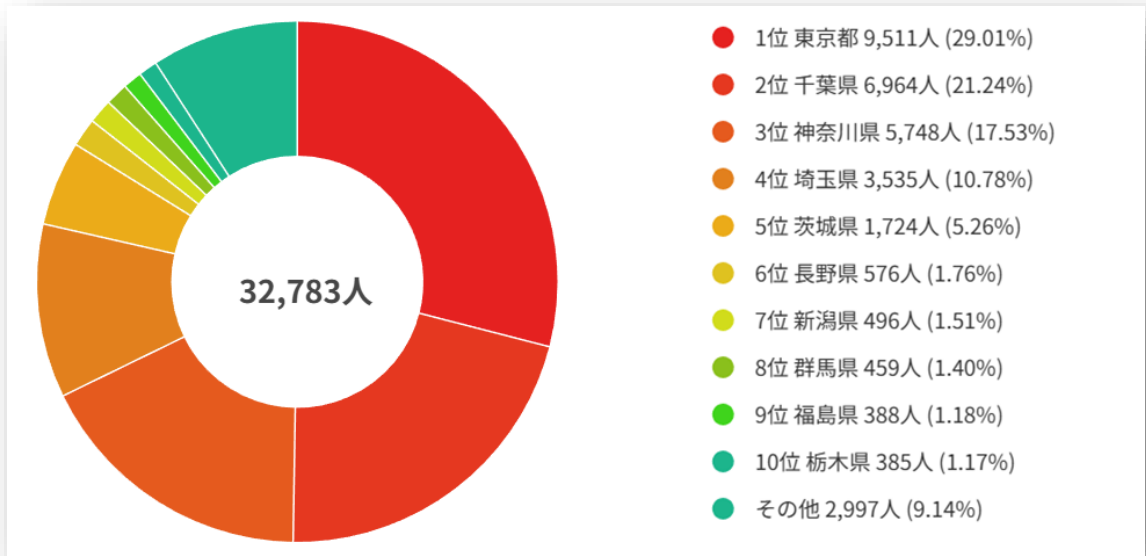


*地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。東京都の29.01%と最も多く、千葉県の21.24%、神奈川県が17.53%が続く。

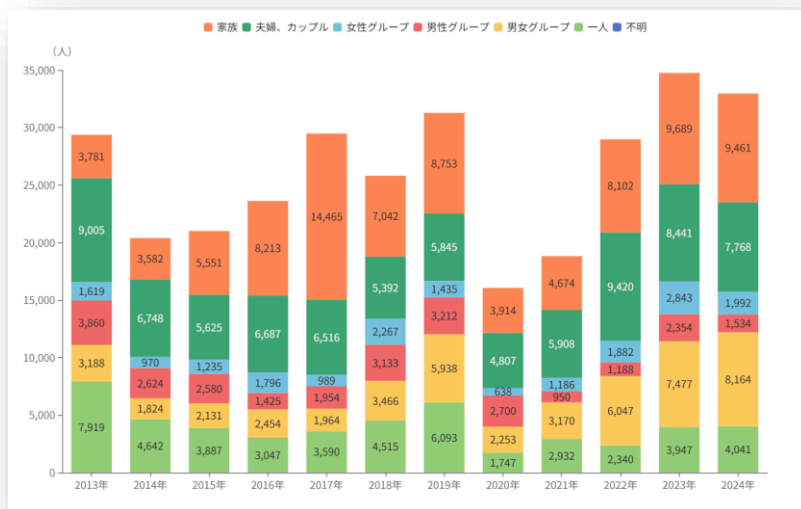


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移（2024年）

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「家族」の9,461人、その後、「男女グループ」の8,164人、「夫婦、カップル」の7,768人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：君津商工会議所
 〒299-1163 千葉県君津市空師1-11-10
 TEL:0439-52-2511 FAX:0439-52-0177
 URL:<https://www.kimitsucci.or.jp/>

